


## 報道機関各位

平成31年2月26日(火) 配付

項 目	平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査北海道版結果報告書について	
配付資料	①平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 調査結果に関するオホーツク教育局の考え方 ②オホーツク管内の状況(北海道版結果報告書)	
内容及び報道に当たってのお願い	北海道教育委員会では、小学校第5学年と中学校第2学年の児童生徒を対象にした標記調査の北海道版結果報告書を公表したことから、オホーツク教育局の考え方と管内の調査結果概要を配付します。	
担当窓口	オホーツク教育局教育支援課長 遠藤 直俊 (担当:義務教育指導班指導主事 森下 智之) 電話 0152-41-0755 FAX 43-0200	

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 調査結果に関する  
オホーツク教育局の考え方（2月12日）

- 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査のオホーツク管内の状況については、各種目の得点を合計した体力合計点が、小学校及び中学校の男女とも全国平均を下回ったものの、前年度より数値が上昇し、全国との差が縮まりました。
- 種目別で全国を上回ったものは、小学校男子の「握力」、「反復横とび」「ソフトボール投げ」、小学校女子の「握力」、「上体起こし」、「反復横とび」、「ソフトボール投げ」、中学校男子の「握力」、「ハンドボール投げ」であり、児童生徒質問紙調査結果からは、小・中男女とも「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合が、全国を上回るなど、一定の成果が見られるところです。
- 一方で、児童生徒質問紙調査から、小学校における「授業の始めに、授業の目標が示されている」と回答した児童の割合及び小・中学校における「授業の最後に、今日学んだ内容を振り返る活動を行っている」と回答した児童生徒の割合が、男女とも全国を下回っていることから、児童生徒が運動の楽しさや達成感を味わうことができるような指導方法の工夫など、授業改善の取組を一層進めることが課題となっています。
- 教育局としては、「オホーツク管内どさん子元気アップチャレンジ2018」において、休み時間や放課後、家庭など、体育・保健体育授業以外で取り組む運動プログラムや体育・保健体育授業の改善に取り組むプログラムとして「オホーツク運動プログラム」を作成・配付するとともに、今年度の「北海道版結果報告書」等の結果を学校全体で分析する体制が確立されるよう、管内の状況を分析し、課題を明らかにするなど、各学校における体力向上に向けた組織的・計画的な取組を支援してまいります。
- 教育関係者や保護者の方々はもとより、広く管内の皆様の御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# オホーツク管内の状況

3市14町1村

## 小学校

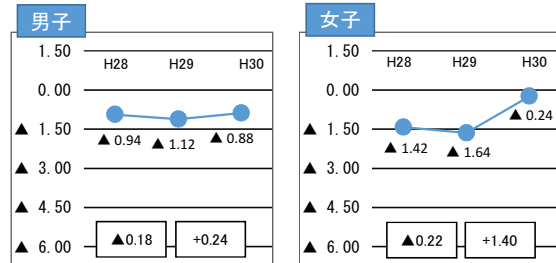
(学校数:82校、児童数:2,054人)

### 実技に関する調査

#### 【体力合計点】

	男子	女子
オホーツク	53.33	55.66
北海道	53.43	54.76
全国	54.21	55.90

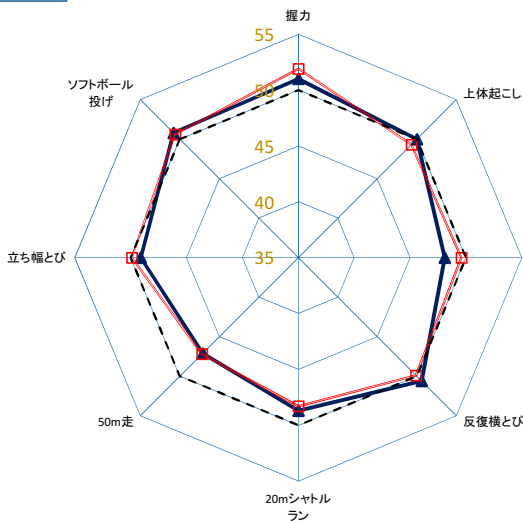
#### 【体力合計点の全国との差の推移】



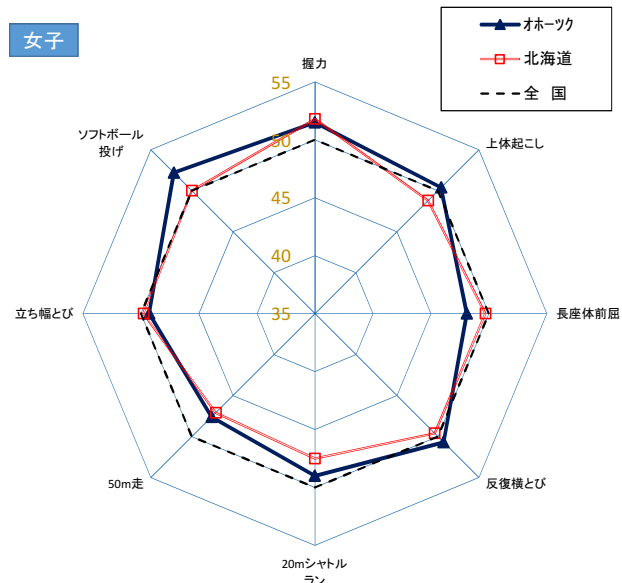
#### 【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示

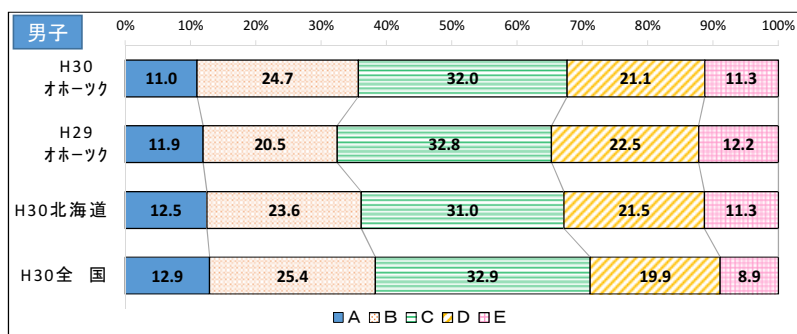
##### 男子



##### 女子



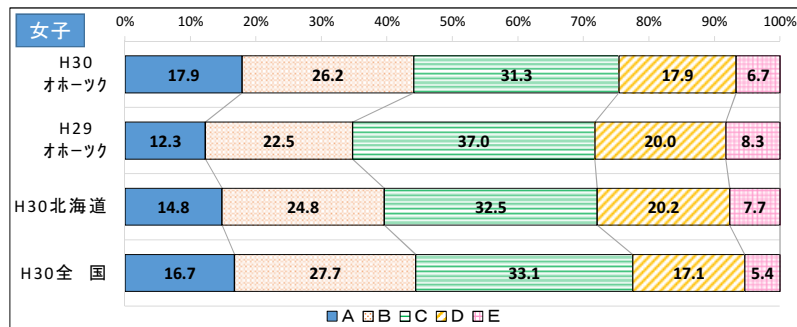
#### 【体力合計点総合評価の児童の割合】



#### 【AB層-DE層】

性別	AB	DE	AB-DE
H30オホーツク	35.7	32.4	3.3
H29オホーツク	32.4	34.7	▲2.3
H30北海道	36.1	32.8	3.3
H30全国	38.3	28.8	9.5

H30オホーツクの状況	
H30全国との差	H29オホーツクとの差
▲6.2	5.6



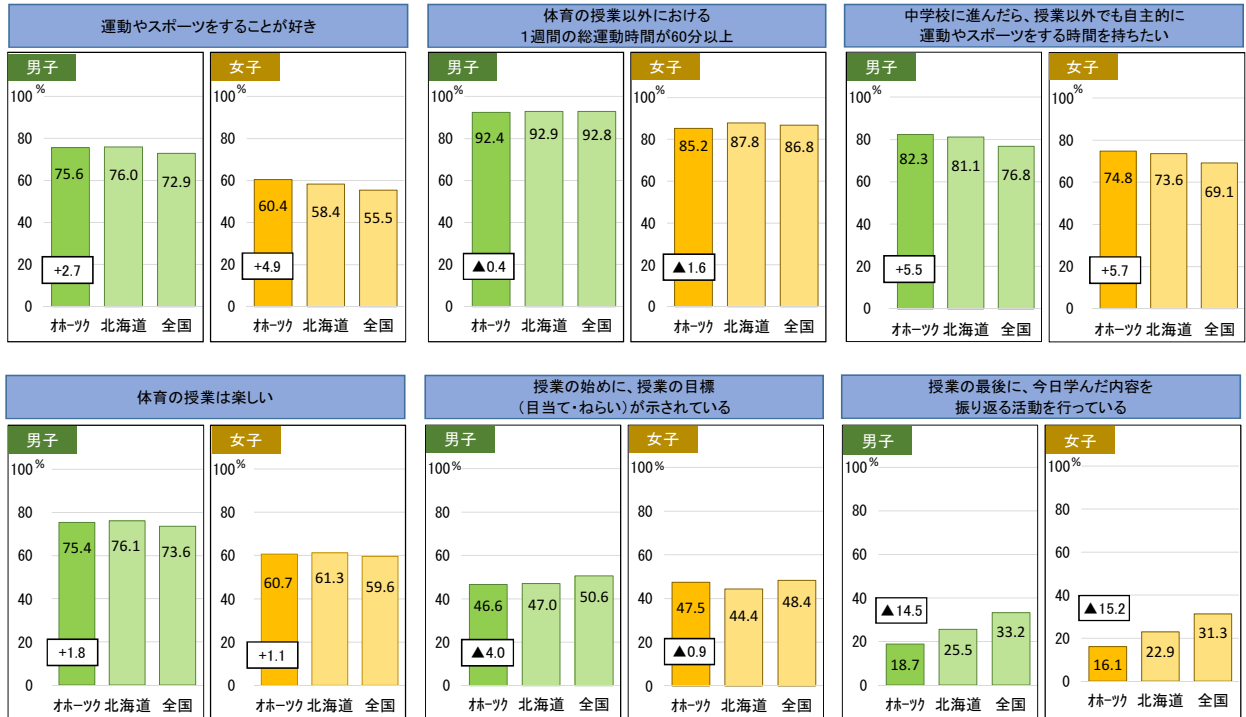
性別	AB	DE	AB-DE
H30オホーツク	44.1	24.6	19.5
H29オホーツク	34.8	28.3	6.5
H30北海道	39.6	27.9	11.7
H30全国	44.4	22.5	21.9

H30オホーツクの状況	
H30全国との差	H29オホーツクとの差
▲2.4	13.0

# 質問紙調査

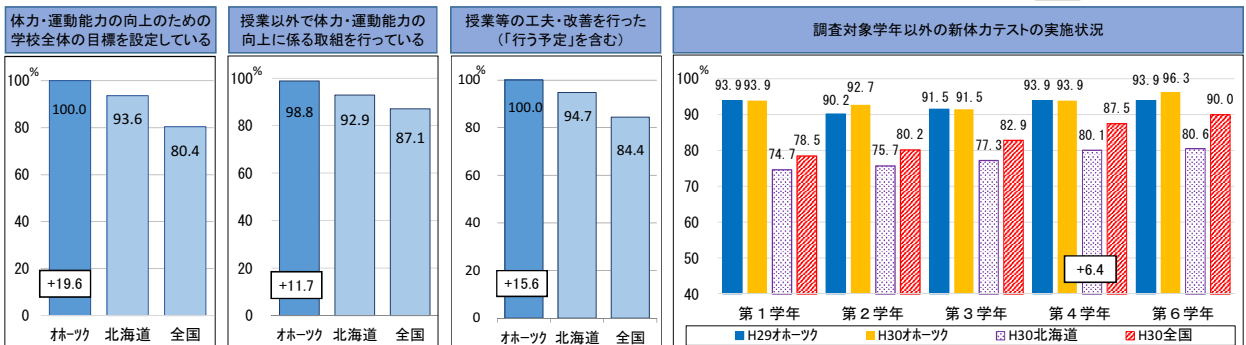
## 【児童質問紙】

※ □ 内はH30全国との差



## 【学校質問紙】

※ □ 内はH30全国との差



## 【分析】

実技	[男子]	体力合計点は、全国より0.88ポイント低いが、平成29年度と比べると改善している。 種目別に全国を上回ったのは、握力、反復横とび、ソフトボール投げの3種目である。 AB-DEの値は、全国より6.2ポイント低いが、平成29年度と比べると高くなっている。
	[女子]	体力合計点は、全国より0.24ポイント低いが、平成29年度と比べると改善している。 種目別に全国を上回ったのは、握力、上体起こし、反復横とび、ソフトボール投げの4種目である。 AB-DEの値は、全国より2.4ポイント低いが、平成29年度と比べると高くなっている。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童の割合は、男子が、75.6%であり、全国と比べて2.7ポイント高い。女子が、60.4%であり、全国と比べて4.9ポイント高い。</li> <li>○ 「体育の授業以外における1週間の総運動時間が60分以上」と回答した児童の割合は、男子が92.4%であり、全国と比べて0.4ポイント低い。女子が、85.2%であり、全国と比べて1.6ポイント低い。</li> <li>○ 「授業の始めに授業の目標(目当て・ねらい)が示されている」と回答した児童の割合は、男子が、46.6%であり、全国と比べて4.0ポイント低い。女子が、47.5%であり、全国と比べて0.9ポイント低い。</li> <li>○ 「授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っている」と回答した児童の割合は、男子が、18.7%であり、全国と比べて14.5ポイント低い。女子が、16.1%であり、全国と比べて15.2ポイント低い。</li> </ul>	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を、学年としての目標と別に設定している学校の割合は、100.0%であり、全国より19.6ポイント高い。</li> <li>○ 体育の授業以外で全ての児童の体力・運動能力の向上に係る取組を行っている学校の割合は、98.8%であり、全国より11.7ポイント高い。</li> <li>○ 平成29年度の調査結果を踏まえて、授業等の工夫・改善を行った学校の割合は、100.0%であり、全国より15.6ポイント高い。</li> </ul>	

# ■ 中学校

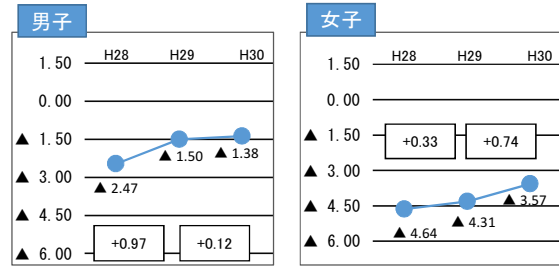
(学校数:49校、生徒数:2,100人)

## 実技に関する調査

### 【体力合計点】

	男子	女子
オホーツク	40.94	47.04
北海道	40.94	46.82
全国	42.32	50.61

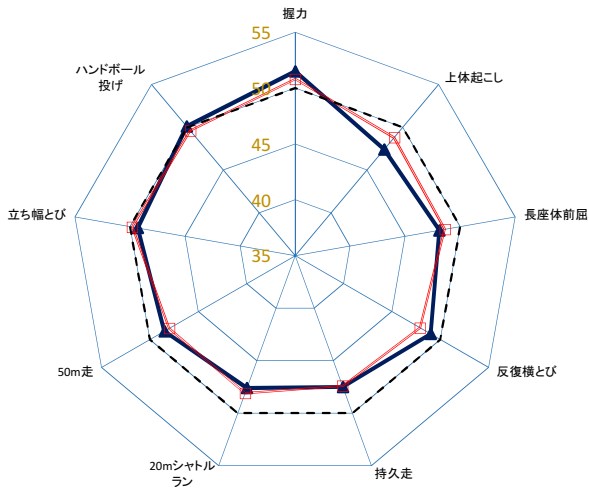
### 【体力合計点の全国との差の推移】



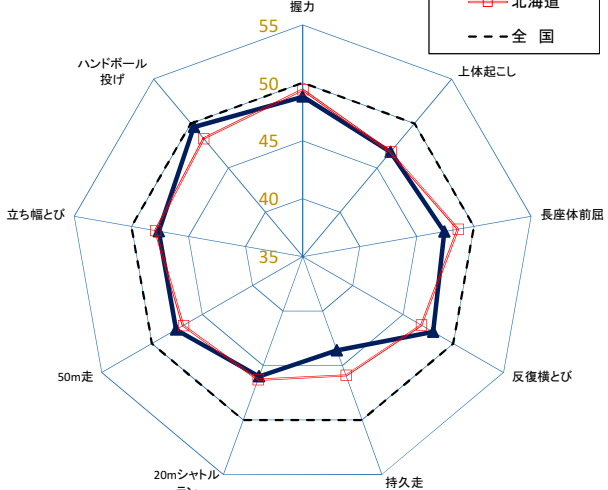
### 【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示

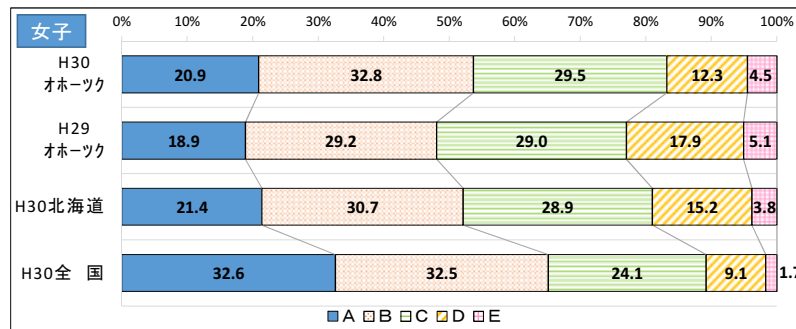
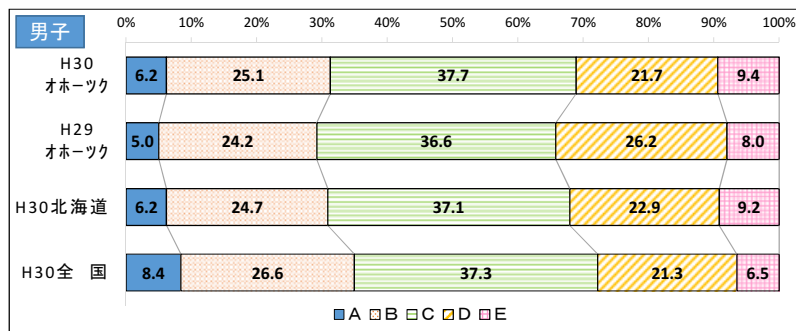
#### 男子



#### 女子



### 【体力合計点総合評価の生徒の割合】



### 【AB層-DE層】

性別	AB	DE	AB-DE
H30オホーツク	31.3	31.1	0.2
H29オホーツク	29.2	34.2	▲ 5.0
H30北海道	30.9	32.1	▲ 1.2
H30全国	35.0	27.8	7.2

H30オホーツクの状況	
H30全国との差	H29オホーツクとの差
▲ 7.0	5.2

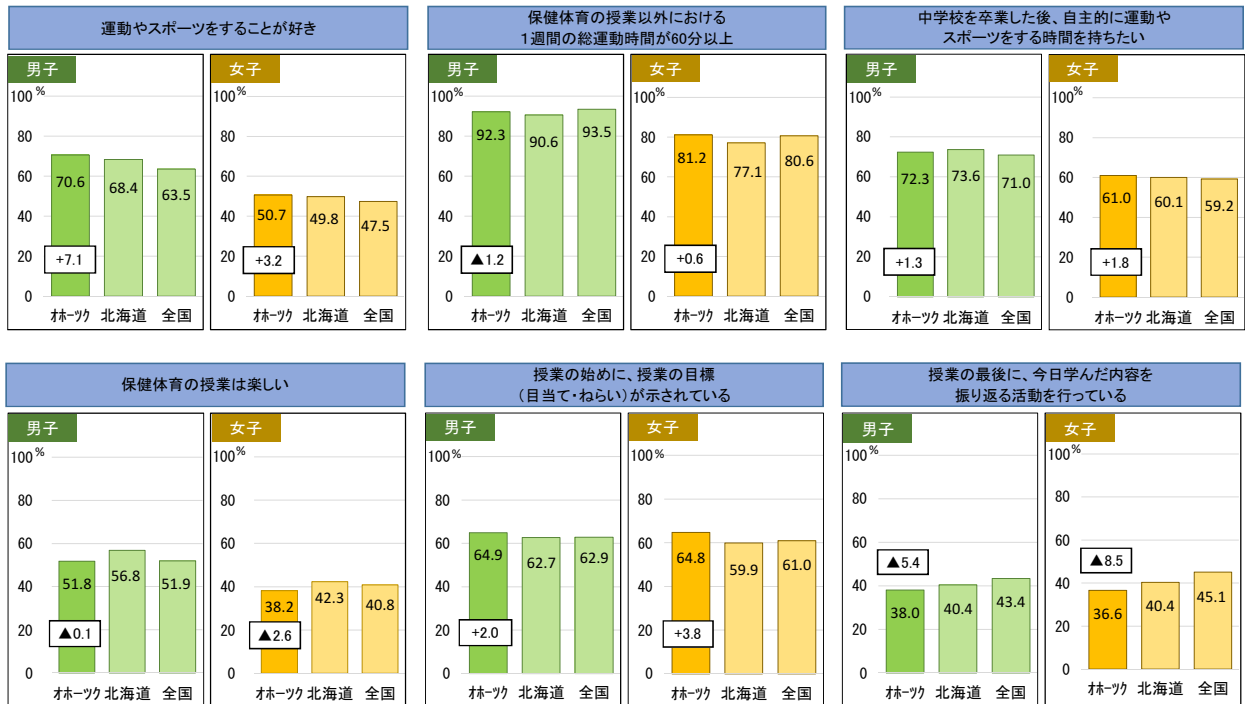
性別	AB	DE	AB-DE
H30オホーツク	53.7	16.8	36.9
H29オホーツク	48.1	23.0	25.1
H30北海道	52.1	19.0	33.1
H30全国	65.1	10.8	54.3

H30オホーツクの状況	
H30全国との差	H29オホーツクとの差
▲ 17.4	11.8

# 質問紙調査

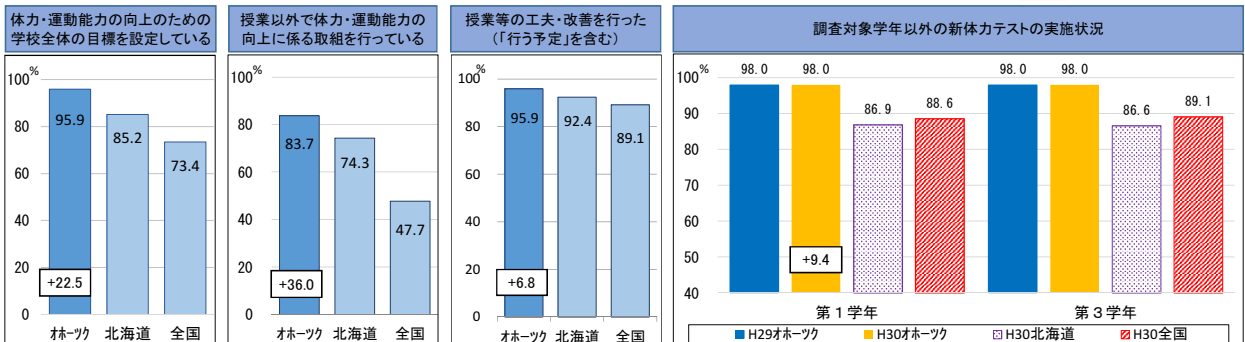
## 【生徒質問紙】

※ □内はH30全国との差



## 【学校質問紙】

※ □内はH30全国との差



## 【分析】

実技	<p>[男子] 体力合計点は、全国より1.38ポイント低いが、平成29年度と比べると改善している。種目別に全国を上回ったのは、握力、ハンドボール投げの2種目である。AB-DEの値は、全国より7.0ポイント低いが、平成29年度と比べると高くなっている。</p> <p>[女子] 体力合計点は、全国より3.57ポイント低いが、平成29年度と比べると改善している。種目別に全国を上回った種目はない。AB-DEの値は、全国より17.4ポイント低いが、平成29年度と比べると高くなっている。</p>
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した生徒の割合は、男子が、70.6%であり、全国と比べて7.1ポイント高い。女子が、50.7%であり、全国と比べて3.2ポイント高い。</li> <li>○ 「保健体育の授業以外における1週間の総運動時間が60分以上」と回答した生徒の割合は、男子が92.3%であり、全国と比べて1.2ポイント低い。女子が、81.2%であり、全国と比べて0.6ポイント高い。</li> <li>○ 「授業の始めに授業の目標(目当て・ねらい)が示されている」と回答した生徒の割合は、男子が、64.9%であり、全国と比べて2.0ポイント高い。女子が、64.8%であり、全国と比べて3.8ポイント高い。</li> <li>○ 「授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っている」と回答した生徒の割合は、男子が、38.0%であり、全国と比べて5.4ポイント低い。女子が、36.6%であり、全国と比べて8.5ポイント低い。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を、学年としての目標と別に設定している学校の割合は、95.9%であり、全国より22.5ポイント高い。</li> <li>○ 保健体育の授業以外で全ての児童の体力・運動能力の向上に係る取組を行っている学校の割合は、83.7%であり、全国より36.0ポイント高い。</li> <li>○ 平成29年度の調査結果を踏まえて、授業等の工夫・改善を行った学校の割合は、95.9%であり、全国より6.8ポイント高い。</li> </ul>